

学校法人修道学園中期事業計画（2025-2029年度）

1. はじめに

修道学園は享保10年（1725年）、広島藩5代藩主の浅野吉長公が藩学の源となる講学所を創始したことに淵源を発し、2025年に創始300年を迎えます。

講学所は幾多の存亡の機を乗り越えながら財団法人修道中学校へと道をつなぎ、昭和23年（1948年）、新制修道高等学校の設置とともに財団法人修道学園へと名称を変更しました。また、昭和27年（1952年）には修道短期大学商科（第二部）の開学により新たな道を拓き、昭和35年（1960年）の広島商科大学の設置、昭和48年（1973年）の広島修道大学への校名変更、そして昭和49年（1974年）の沼田キャンパスへの総合移転により総合学園として更なる飛躍を遂げました。また、平成27年（2015年）の鈴峯学園との合併により教学の幅を拡げ、総合学園としての地歩を固めています。

修道学園は、これまでに14万人を超える卒業生を送り出し、現在、学生・生徒数9千人を数える西日本で有数の学校法人として発展しています。

創始300年を迎えるにあたり、歴史が紡いできた伝統と強固な経営基盤を礎に、各設置学校の連携を更に深めることでシナジーを発揮し、全国から選ばれる総合学園として「未来へつなげる」人材を育成していきます。

2. ミッション・修道ブランドを磨き続け、教学を支える。

創始300年を迎え、先師先達の人材育成にかける想いを振り返り、次代に向けて教学を支える修道ブランドをブラッシュアップします。

3. ビジョン・法人が各設置学校の有機的連携を牽引し、持続可能な経営体制を確立する。

修道学園は、これまで設置学校の主体性を尊重し、それぞれが独創的な教育・研究、またタイムリーな学校運営を行ってきました。このことは、設置学校の強みを最大限活かした修道学園ならではの強みではありますが、将来確実に訪れる少子化といった課題に対して万全とは言えません。そのため、法人が各設置学校の有機的連携を牽引し、修道学園全体として設置学校の弱みを補完し合い、筋肉質で盤石な経営体制を確立します。

4. 中期事業計画

（1）法人

現在・未来の外部環境を俯瞰し、経営資源を踏まえて重要課題を抽出したうえで行動計画と評価指標を設定する。

①教学

設置学校の「建学の精神」と「ビジョン」を尊重し、法人としての総合力を高めることで設置学校の中期事業計画の達成を支援する。

（ア）教育・研究の質の向上

（イ）多様な学生・生徒の確保

(ウ)新たな価値の創造

②人事

生産年齢人口が漸減する中、労働価値観の変化や働き方改革といった情勢変化に的確に対応し、ウェルビーイングな職場環境を実現するとともに、多様な個を活かす経営を推進する。

(ア)ダイバーシティ&インクルージョンの推進

(イ)人的リソースの効率的配分

③施設

強靱でサステナブルな施設整備を進めるとともに、未来志向で新しい「学び」を実現する学校施設を整備する。

(ア)教育・研究設備の充実

(イ)SDGs への貢献

④経営・財務等

法人ガバナンスを強化し、持続可能な経営基盤を構築するとともに、多様な財務戦略を推進することで盤石な財務体質を維持する。

(ア)法人ガバナンスの強化

(イ)持続可能な財務体質の構築

(ウ)データドリブン経営の推進

(エ)DX ツールを活用した業務改革の推進

(オ)新たなブランド価値の創造

(2) 広島修道大学

大学部は長期計画「2040年の広島修道大学ビジョン」を2024年度に策定した。これは、建学の精神に基づく長期的な目標（将来広島修道大学があるべき姿）を示したものであり、「VISION」として「開拓者精神：未知（道）を切り拓く挑戦と創造の拠点」を掲げている。そして、「VISION」を達成するため、教育、研究、社会貢献、大学運営の全てを横断する基本的な指標、大切な価値観として6つの「VALUE」（「誰もがやりたいことに挑戦できるトポス」「地域を導き世界を変える研究力」「ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン」「デジタルシナジーキャンパス」「コラボラティブでイノベーティブな組織文化」「社会からつながりを求められる大学」）を示した。

このたびの大学部中期事業計画は「2040年の広島修道大学ビジョン」の下、そのビジョンの達成に向けての基盤づくりを意識する5年間と位置づける。

【テーマ】開拓者精神を育てる基盤づくり

①教育

(ア)学修者本位の教育の実現

(イ)教育の質を高めるための支援と検証体制の充実

(ウ)エンrollment・マネジメントの実現

(エ)グローバル・コンピテンスの向上

②研究

- (ア)研究活動推進の全学的な機運醸成
- (イ)効果的な支援による個別研究の活性化
- (ウ)教育還元・社会還元のための研究成果の質的量的拡充
- ③社会貢献・地域貢献
 - (ア)地域に開かれた大学（キャンパス）づくり
 - (イ)連携の推進と魅力ある連携事業の実現
 - (ウ)学生の社会活動の活性化
- ④大学運営
 - (ア)働きやすく生産性の高い職場環境の構築
 - (イ)健全な財政基盤の維持
 - (ウ)個々と組織の成長につながる人財活用制度の構築
 - (エ)危機に強いマネジメント体制の構築
 - (オ)内部質保証の強化
- ⑤挑戦的取り組み
 - (ア)多様な学生が集う学び舎づくり
 - (イ)広島修道大学（修大ブランド）のプレゼンス向上
 - (ウ)活動の活性化につながる教員活動評価制度の構築
 - (エ)長期的な教育組織（学部・学科・大学院・教員組織）再編計画の策定

(3) 修道中学校・修道高等学校

【めざす生徒像】

「修道ベーシック・ルーブリック（以下「SBR」という。）」の全ての項目の評価が5となる。

（具体策）

- ・生徒のSBRの自己評価により、生徒個々の自己肯定感とレジリエンスを高めていく。
- ・学校行事、班活動等の教育成果が見える化する。
- ・教育カリキュラムにより、生徒の非認知能力、創造力を高めていく。

【めざす学校像】

グローバル化は社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつある。こうした社会的変化のもと、教育の在り方も新たな事態に直面している。2040年に向けて、未来を予測するだけでなく、未来を創る意識をもって、建学の精神である「次代のリーダー育成」をミッションとして、SBRにある「世界貢献」の意思を持つ「世に有為な人材」を輩出し続ける学校でありたい。少子化においても、入学志願者の第1志望の私立学校であり続けるためのブランディングを実践していく学校を目指す。また、学校規模は現状を維持し、男子校という学校形態も変更しない。

（具体策）

- ・300年の歴史によって醸成されたハビトゥスを存続させる。
- ・ステークホルダーへの説明責任とこまやかな対応を重視する。

- ・人事計画を策定して優秀な教職員を確保する。
- ・安全で安心できる学校生活を保障する。
- ・インクルーシブ教育をシステム化し多様性を尊重する。
- ・フューチャー・リーダーズ・プログラムと SBR との連動性を深化させ、国際理解教育の柱とする。
- ・個別化される学習形態への対応
 - ①学力の向上
 - (ア)学習意欲の向上
 - (イ)非認知能力・創造力の涵養
 - ②リーダーシップの育成
 - (ア)レジリエントの強化
 - (イ)倫理観の涵養
 - ③安全管理の徹底
 - (ア)リーガルマインドの涵養
 - (イ)リスク管理の徹底
 - ④教員の指導力向上
 - (ア)ロイヤリティーの確保
 - (イ)教員の学びの支援
 - (ウ)教員の業務支援
 - ⑤ブランディング
 - (ア)ステークホルダーへの対応
 - (イ)私学としての独自性の確立
 - (ウ)インクルーシブ教育の実施

(3) 広島修道大学ひろしま協創中学校・広島修道大学ひろしま協創高等学校

修道学園と合併して2年後にあたる2017（平成29）年7月、本校の教育条件等の整備について協議する広島修道大学との運営協議会において、来るべき男女共学化と校名変更を見据え、本校教育および学校運営の10か年計画「協創ビジョン10」が策定された。

この計画は、広島修道大学附属鈴峯女子中学校・高等学校の開校年にあたる2015（平成27）年から10年後の2024（令和6）年までにおける、本校の目指すべき方向性を整理した計画で、最初の4年間を本校の教育を深化させる期間と位置づけ、5年目の節目の年に共学化と校名の変更を実現することとし、後半の5年間は、中高大の密接な連携を特徴とする存在感のある男女共学の私学となるための取組を具現化する期間とされた。

この間、本校では、教育目標である「グローバル・イノベーション・リーダー」像を明確にするとともに、子供たちの教育に直接携わる教職員一人一人が生き生きと教育活動に取り組める環境を整えるという視点から取組みを進めてきた。

そして、計画期間の最終年度となる本年、2024（令和6）年度、この10年間の取組に対する成果と課題を整理し、選ばれ続ける学校であるための新たな挑戦を「協創ビジョン

2029」]として取りまとめた。

【教育目標】 グローカル・イノベーション・リーダーの育成

【教育活動指針】 4つの力を身に付ける

- ・課題解決する力
- ・協創する力
- ・社会参画する力
- ・自己実現する力

①協創教育の推進

(ア)4つの力(課題解決する力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)の育成

(イ)グローバル・コンピテンス・プログラムの推進

(ウ)国際理解教育の推進

(エ)ICTを活用した創造的な教育の推進

②学力の向上

(ア)「主体的・対話的で深い学び」の実践による学力向上

(イ)探究力を育成する教育の実践

③進路指導の強化

(ア)生徒の進路希望を実現するデータに基づいた組織的な進路指導の充実

④教育力の向上

(ア)教職員研修の充実

(イ)公開研究授業の実施

(ウ)授業観察・評価の充実

(エ)学校ルーブリック、教科ルーブリックを活用した評価の実践

⑤自立(自律)心の育成

(ア)規範意識や倫理観の育成

(イ)学校生活の活性化

⑥生徒募集の充実

(ア)戦略的な広報活動の実施

⑦学校組織力の強化

(ア)組織体制の充実

(イ)人事評価の適切な実施

⑧事務室の機能強化

(ア)経営面の機能強化

(イ)財務面の機能強化

以 上